



統合失調症の専門病院として 患者の早期社会復帰を手掛ける

医療法人社団 欣助会
吉祥寺病院
東京都調布市



精神科病院の中でも統合失調症を専門とする吉祥寺病院（塚本一院長、345床）では、早くから患者の社会復帰を手掛け、家族会の立ち上げなど手厚い家族支援を行うほか、長期入院患者に対しては実践的な生活技能訓練を実施。その結果、同院の入院日数は全国平均の約半分と短く、多くの患者が社会で安定した生活を送っている。現在も「統合失調症といえば吉祥寺病院」と評価されるようなブランド力形成に向け、医療の質向上と在宅支援に向け日夜努力している。

（上）相談室で患者家族の入院相談にあたる精神保健福祉士（PSW）。同院では10人のPSWが在籍し、入退院時の調整や面接のほか、各病棟に配置され患者の相談役に当たるなど重要な役割を担っている
（左）吉祥寺病院では、「統合失調症に日本一強い病院」、「職員にとって働きがいのある病院」を目標に掲げ職員一丸となって取り組んでいる



①生活技能訓練(SST)の様子。SSTとは、認知行動療法に基づいたリハビリテーションで、社会復帰に向け、ストレス対処や問題解決ができるスキルの習得を目的としたもの。同院では、長期入院患者を対象に、服薬教室やチャレンジグループなどのプログラムを提供し、社会復帰に向けた生活能力の向上を目指している

②同院が開催する患者家族を対象にした心理教室、「ファミリーサポートセミナー」の様子。6~8人のグループごとに毎月1回、主治医や看護師、PSWらが年8回の講義やグループワークを行い、患者が家族と向き合うためのサポートを行っている

③同院では専門医とスタッフらによるチーム医療が基本。病棟では随時多職種によるカンファレンスが開かれ、患者一人ひとりに合わせた治療計画を検討していく

④同院には1日100人以上の外来患者が訪れる。また、近隣の大学病院や診療所からの紹介患者も多く、入院患者の6割を紹介患者で占められている



1965年に家族会を立ち上げ 病気に対する学びの場を提供

吉祥寺病院では、創始者である塚本金助初代院長の「精神科病院は、精神障害を持つ方が地域で暮らせることを手助けするのが本来の役割」という理念に基づき、統合失調症患者の社会復帰に特に力を入れている。精神科病院の全国の平均在院日数が300日を超える中、同院の平均在院日数は160日と短く、入院患者の多くが早期の社会復帰に成功している。これを実現するのが、同院ならではのきめ細やかな家族支援と、作業療法士や精神保健福祉士、看護師らによる実践的な生活技能訓練である。

「統合失調症は、患者さんに対するご家族の対応一つで病気の再発率がまったく違うのが特徴。ご家族が過干渉、あるいは放任主義だったりすると再発率が上昇してしまうため、患者さんときちんと向き合っていただくためにも、まずはご家族への支援が欠かせません」。こう話すのは、初代院長の理念を継承する塚本一院長だ。

家族と患者が適切な距離をとるためには、まず、家族自身が統合失調症という病気をよく理解することが欠かせない。そこで、同院では1965年から病院独自の家族会を立ち上げ、懇談や学習会を通し、家族同士が支え合い、学び合える場を提供。さらに2003年度からは外来・入院患者のほか、一般市民も参加できる統合失調症の基礎知識を習得することを目的とした「家族

教室」や、特定の入院患者の家族を対象に心理教育を行う「ファミリーサポートセミナー」を定期的に開催し、家族からも高い評価を得ている。

退院患者の体験談を聞きながら 退院へのモチベーションを高める

一方、入院患者への社会復帰に向けた生活技能訓練(SST)のほか、社会復帰プログラムとして特徴的なのが、同院に勤める作業療法士の提案で始めたチャレンジグループのセッションだ。「統合失調症の方は入院が長期になればなるほど、社会での暮らしに不安を抱き、退院を拒む傾向があります。チャレンジグループではそうした長期入院患者を対象に、実際に同院を退院し地域で生活している先輩に現在の暮らしぶりを語ってもらい、実生活のイメージを抱いてもらうようにしています」(塚本院長)

セッションでは、「食事の支度や買い物はどうすればよいか」「夜1人で眠れなくなったときはどうすればよいか」といった患者の不安に対し、1つひとつ退院患者が丁寧に回答していく。さらに、実際に作業所やグループホームを見学しながら自治体によって異なるゴミの出し方などを学び、退院後の生活イメージを抱きやすくするという。「退院前は不安を持っていた方でも、セッションに参加しいざ退院してみると、今までにない自由を体感し、驚くほど表情が生き生きと変わります」と、塚本院長も手応えを感じている。



- ⑤2004年に完成した新病棟に設けられた4人部屋の病室。各ベッドに窓が配置されカーテンを引けば個室のような空間になる
- ⑥同院に勤める精神保健福祉士(PSW)の皆さん。「患者さんは医師や看護師に直接言いつらいことでも、PSWに打ち明けることが多い」と、塚本院長。同院では臨床心理士は非常勤で1人しか雇用していないが、その分患者の相談役としてPSWが非常に機能しているという
- ⑦新病棟の南側にある中庭。天気の良い日は、看護師と散歩する患者の姿が見られる



退院後の生活を支えていくため 今後は訪問部隊にも力を入れたい

同院では人材確保にも余念がなく、現在は10人の精神保健福祉士(PSW)が各病棟に配置され、入院時の面接や患者の相談役を担うほか、地域とのネットワーク作りに奔走するなど重要な役割を果たしている。なお、PSWが担当した相談件数は、日本医療機能評価機構受診病院の平均の20倍にもなるという。また、看護部では院内・院外研修を積極的に企画しており、充実した教育研修制度に魅かれ、新たに応募してくる看護師も少なくない。

今後の目標は、統合失調症の専門病院として患者の社会復帰を目指す一方、退院した患者を地域でもっと支えていけるシステムを作ること。「人材が集まり次第、往診や訪問看護に力を入れ、地域とのネットワーク強化にも努めていきたい」と塚本院長は意欲的だ。

(砂川朋子)



つかもと はじめ
塚本 一 理事長・院長

医療費削減の流れに加え、人件費や土地代がかさむ都心において医療経営を維持していくには、相当の経営努力が求められます。しかし、都内に70近い精神科病院がある中、「統合失調症だったら吉祥寺病院」と言われるようなブランド力を備えれば、経営維持は十分可能です。そうした選ばれる病院になるためにも、これからも医療の質向上を目指し、職員一同頑張りたいと思います。

DATA

(2011年3月1日現在)

※2001年に日本医療機能評価機構の認定取得、06年に更新

診療科目：精神科

病床数：345床

職員数(非常勤含む)：258人(医師18人、看護師106人、薬剤師5人、作業療法士11人、管理栄養士2人、精神保健福祉士10人ほか)

入院基本料：精神科病棟入院基本料15対1、精神科急性期治療入院料1

平均在院日数：160日

病床利用率：93%

1日平均外来患者数：112人

住所：〒182-0011 東京都調布市深大寺北町4-17-1

TEL：042-482-9151

URL：<http://www.kichijoji-hospital.com/index.html>